

- α -scale polar low. J. Meteor. Soc Japan, 68, 307-317.
- Orlanski, I. 1975: A rational subdivision of scale for atmospheric processes. Bull. Amer. Meteor. Soc., 56, 527-530.
- Rasmussen, E., 1979: The polar low as an extra-tropical CISK disturbance. Quart. J. Roy. Met. Soc., 105, 531-549.
- , and M. Lystad, 1987: The Norwegian polar low project: a summary of the international conference on polar lows, 20-23 May 1986, Oslo, Norway. Bull. Amer. Meteor. Soc., 68, 801-816.
- Reed, R. J., 1979: Cyclogenesis in polar air streams. Mon. Wea. Rev., 107, 38-52.
- Shapiro, M.A., L.S. Fedor and T. Hampel, 1987: Research aircraft measurements of a polar low over the Norwegian Sea. Tellus 39A, 272-306.
- Stevenson, C.M., 1968: The snowfalls of early December 1967. Weather, 23, 156-162.

地球温暖化フォーラム「人間活動と地球温暖化」

今日、人間活動の拡大により様々な地球環境問題が顕在化しています。中でも温室効果気体の増加に伴う地球温暖化は、気候の変化、海面水位の上昇などをもたらす、農業・食糧生産、水資源、人の健康、生態系等に様々な悪影響を及ぼすと考えられています。地球温暖化は、有史以来人類が経験したことのない急激な気候変動であり、産業活動・日常生活はもとより私達の社会全体をゆさぶる重大な問題となりつつあります。地球温暖化を防止し、悪影響を回避するためには、社会のすべての人々による、この問題についての理解と協力が不可欠です。

国際的には、気候変動に関する政府間パネルによる地球温暖化の科学的評価や温暖化防止を目的とする条約の策定作業が精力的に進められています。また、我が国においても、関係省庁や大学、さらには地方公共団体、民間も含めて、様々な活動が始められています。このような時機にこの問題の科学的背景、緊急性、影響と対策等について最新の情報をお伝えし、「人類の未来を救うために私達は何をすべきか」を皆様と共に考える場として地球温暖化フォーラムを開催致します。各方面より多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

期 日：平成4年2月28日(金)

13時30分～17時00分(13時00分 開場)

会 場：千代田区公会堂

参加資格：どなたでも自由に参加出来ます。(入場無料)
但し、会場の都合により先着900名様までとさせていただきます。

主 催：気象庁、東京大学気候システム研究センター

後 援：日本気象学会

協賛(予定)：ウェザーニューズ、NTT データ通信、オーシャンルーツ、日本気象協会、日本放送協会、富士通(五十音順)

講 演：

真鍋淑郎 米国地球流体力学研究所

「コンピュータによる地球温暖化の予測とその問題点」

伊藤和明 文教大学国際学部教授(NHK解説委員)

「地球環境とくらし」

茅 陽一 東京大学工学部教授

「地球温暖化の対応方策」

パネルディスカッション

「地球温暖化から人類の未来を救うために我々は何をなすべきか。」

司会

松野太野 東京大学気候システム研究センター長

パネラー

上記の講師及び立平良三気象庁長官

プログラム：

13:00 開場

13:30 開会 開会挨拶、講師・パネラー紹介

13:40 第一部 基調講演

——休憩——

15:50 第二部 パネルディスカッション

17:00 閉会

問い合わせ先：

気象庁総務部企画課 気候変動対策室 松本、太田

電話 03-3212-8341(内線2263)

Fax 03-3212-2453